

平成 27 年度 自己点検・評価書

佐賀大学

アドミッションセンター

I. アドミッションセンターの目的と概要	3
II. 領域別評価	
① 教育の領域（学生の受入に関する事項）	
観点①	4
② 研究の領域（学術・研究活動に関する事項）	
観点①	5
③ 組織運営の領域	
観点①	6
観点②	16
III 平成26年度アドミッションセンター報告書（添付資料）	

I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、平成19年9月19日付のセンター要項に基づき同年10月1日に設置された。センター長（併任：1名）、専任教員（1名）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは、入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は、年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では、「平成27年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし、点検および評価を行う。以下、同報告書は、「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価

① 教育の領域（学生の受入に関する事項）

【観点①】 入学者の学修状況等を把握するための追跡調査を実施し、エビデンスに基づく議論を行うための環境を整え、これらのデータを活用しているか。

（観点到係る状況）

アドミッションセンターで行った追跡調査やエビデンスを材料として、各学部の入試委員会で入学者の質に関する分析を行った（「報告書」pp.137-164）。検証の結果、すべての学部で入学者の質は維持されていることが明らかとなった。

アドミッションセンターから提供したエビデンスは以下の通りである（「報告書」pp.165-187）。

- ・ 入試実績の経年変化（志願者数，実質倍率，入学辞退率）
- ・ 推薦・AO入試の実績
- ・ 前期日程個別試験偏差値変化
- ・ 第一志望入学者の割合の変化
- ・ ストレート卒業率の変化

これらのデータは、必要に応じて学部・学科単位で示し、平成22～27年度の変化を分析対象とした。

（分析結果とその根拠）

アドミッションセンターが提供するデータを活用して、組織的な検証が行われている。

以上のことから、入学者の学修状況を把握するための追跡調査を実施し、エビデンスに基づいた議論ができる環境が整っているだけでなく、積極的な活用がなされていると判断できる。

③ 研究の領域（学術・研究活動に関する事項）

【観点①】 センター業務の発展に寄与する研究活動が活発に行われているか。

（観点に係る状況）

センターの専任教員（1名）は、研究出版物の発行、学会・シンポジウム等における研究成果の公表、他大学・研究機関との共同研究に従事している。平成27年度のセンターの専任教員による研究活動の実施状況は表1の通りである。

表1. 専任教員の研究実績（平成27年度）

分類	実績
原著論文	西郡大「キャリア教育からみた出前講義の効果と限界—普通科高校のキャリア教育に高大連携活動をどのように位置づけるか」『Quality Education』,7, pp.65-79,2015年4月.[査読有].
原著論文	西郡大・園田泰正・兒玉浩明.『『多面的・総合的評価』に向けた佐賀大学の入試改革』『大学入試研究ジャーナル (No26)』,pp.23-28,2016年3月.[査読有].
原著論文	西郡大・木村拓也・山田礼子.「大規模学生調査を利用した大学新入生における主体的学習経験の規定要因分析」『佐賀大学全学教育機構』第4号,pp.35-48,2016年3月.
原著論文	西郡大「高校教員からみた看護系進学希望者の特徴」『医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題—看護職志望者の適性と大学入試』(平成22-26年度科学研究費補助金研究基盤研究B最終報告書 課題番号:22390405) pp.151-164,2015.3.
学会発表	西郡大.『『多面的・総合的評価』をどのように考えるか?—今後の入試改革に向けた一考察—』,全国大学入学者選抜研究連絡協議会(第10回大会,東京電機大学東京千住キャンパス),発表論文集,pp.9-14.2015.5.29(口頭発表).
学会発表	西郡大・井ノ上憲司・堺完・木村拓也・森利枝・杉谷祐美子・沖清豪・山田礼子.「調査結果をどのように見せるか現場での活用を意識した学生調査 DB 開発-JSAAP データベースを事例に」.大学教育学会第37回大会(長崎大学),発表要旨集録,pp.182-183.2015.6.6(口頭発表)..
学会発表	西郡大「地方国立大学の事例-マネジメントの高度化に向けた佐賀大学の IR 実践」.高等教育学会第18回大会(早稲田大学),研究発表論文集,pp.248-249.2015.6.28..
学会発表	西郡大「大学入試において面接試験の強みをどこまで発揮できるか?」.日本テスト学会第13回大会(関西大学),発表論文抄録集,pp.54-55.2015.9.11(企画セッション話題提供者).
学会発表	木村拓也・西郡大「教養教育段階におけるテストに関する授業開発と実践(1)」.日本テスト学会第13回大会(関西大学),発表論文抄録集,pp.162-165.2015.9.11(口頭発表).
学会発表	西郡大・木村拓也・「教養教育段階におけるテストに関する授業開発と実践(2)」.日本テスト学会第13回大会(関西大学),発表論文抄録集,pp.166-167.2015.9.11(口頭発表).
科研費(代表者)	「科学的な『思考力・判断力・表現力』を養う学習活動を喚起するデジタルテストの開発」(挑戦的萌芽研究)【申請】
科研費(分担者)	「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育的評価」(基盤研究A 研究代表者:倉元直樹<東北大学>)【申請】

（分析結果とその根拠）

研究活動の内容とセンターの業務との接点が強化されている。専任教員は、入学試験や高大接続に関する課題を専門的に議論する全国規模の研究大会やその他の関連学会において研究発表を行っているだけでなく、査読付きのジャーナルにも論文が掲載されている。また、科研費においては、研究代表者及び研究分担者として積極的に申請しており、活発な研究活動が行われていると判断できる。

③ 組織運営の領域

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

(観点到に係る状況)

■ 高大接続改革（共通政策課題分（入学者選抜改革区分））に関する概算申請

平成28年度特別経費(プロジェクト分)の概算要求として、「大学入試改革が重要な政策として進められる中、従来の手法にとらわれない多面的・総合的評価に向けた手法の開発だけでなく、高大連携活動の在り方の見直しを含めた一体改革の実現により、個別大学における入試改革モデルを提示する」(プロジェクト名：多面的・総合的な評価の実現に向けた入試改革実行プロジェクト)という目的で平成28～32年の5年間のプロジェクトを申請し、採択された。本プロジェクトでは、「佐賀大学版CBT」「特色加点」「継続・育成型高大連携カリキュラム」が主な事業となる。

■ 佐賀大学大学入試改革推進室の設置

上記プロジェクトを確実に遂行するために、学長直下に「佐賀大学大学入試改革推進室」を設置し、全学的に入試改革を推進する組織を立ち上げた。

■ 「佐賀大学版CBT（試行版）」の開発とモニターテスト

入試改革の1つとして、ペーパーテストでは技術的に評価することが難しい領域をタブレット等のデジタル技術を用いて評価する「佐賀大学版CBT」の開発を進めている。これまで化学を題材に試行版テストを開発し、高校生を対象にモニター調査を実施した。問題開発では、「時間軸」の視点を取り入れるなど、デジタル技術のメリットを活かせる可能性を見出すことができた。モニター調査の結果では、多くの高校生がタブレットの解答入力に関して技術上の問題はなく、デジタル技術のメリットを活かした問題作成の効果を部分的に確認することができた。一方、実際の入試運用という観点からは、今後の検討を要する具体的な課題点が明らかになった。

■ 芸術地域デザイン学部の入試実施に向けた支援

平成 28 年度に設置される芸術地域デザイン学部の A O 入試実施に向けて、特色加点の導入や評価基準の設定などに関する支援を行った。また、前期日程の総合問題、後期日程の問題解決・提案力テスト作成に向けた支援も行った。

■ 教育学部の入試実施に向けた支援

推薦入試、A O 入試実施に向けて、申請書の様式や手順に関して助言等の支援を行った。

■ 佐賀県教育委員会との協定の見直し

平成 25 年に佐賀県教育委員会と締結した「国立大学法人佐賀大学と佐賀県教育委員会との高大連携協力に関する協定書」を現在の事業内容に即した形で平成 27 年 9 月に見直した。これにより、今後の佐賀大学の入試改革、高大連携活動、SSH、SGH、オープンキャンパス、ジョイントセミナー等の各事業を新協定のもとで実質的に進めることができるようになった。

(分析結果とその根拠)

高大接続改革の一環として進められる入試改革に向けて概算を獲得するとともに、大学入試改革推進室のもと、佐賀大学版 C B T の開発を着々と進めている。また、芸術地域デザイン学部、教育学部の平成 28 年度入試の実施に対して、評価基準や実施方法に関する支援がなされている。さらに、佐賀県教育委員会との協定見直しを通し連携を強化することで、高校とも連携しながら入試改革を進めていく体制を整えた。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

今後の課題として、高校生を対象としたモニター調査で明らかになった課題点の解決、実際の運用を想定した安定かつ効率的な実施体制を構築することが求められる。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

(観点に係る状況)

- 各種説明会等の実施
 - 受験産業等が主催する進学説明会（「報告書」 p.234）
 - 高校や予備校等で実施する大学説明会（「報告書」 p.235）
 - 高校からの大学訪問において実施する説明会（「報告書」 p.236）
 - 九州地区国立大学合同説明会（「報告書」 p.237）
 - 高校教員対象の入試説明会（「報告書」 pp.206-216）
- オープンキャンパスの企画・実施（「報告書」 pp.52-77）
- 佐賀大学アプリの運用（「報告書」 p.238）
- 佐賀大学案内冊子の編集（「報告書」 p.238）
- 学長の高校訪問（佐世保）（「報告書」 p.238）
- 佐賀大学の新しいブランディング戦略（「報告書」 p.239）
- 入試直前説明会（「報告書」 p.239）
- 教育学部と芸術地域デザイン学部の広報活動支援（「報告書」 p.239）
- ジョイントセミナーの管理・運営（「報告書」 p.240-241）
- 新しい高大連携活動の開発・実施：「教師へのとびら」と「科学へのとびら」（「報告書」 p.242）

(分析結果とその根拠)

高校生、保護者、高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく、オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで、参加者数の増加という結果をもたらしている。また、大学案内、イメージ動画作成、合格発表掲示板の移動、横断幕の設置、ブランディング戦略など、精力的な情報発信が行われている。さらに新たに設置される教育学部と芸術地域デザイン学部の広報活動の広報活動支援にも積極的に関わり、平成 28 年度入試において十分な志願者を獲得した。一方、高大連携活動では、従来から実施してきたジョイントセミナーでは 139 名の教員を高校へ派遣し、高校生が高等教育へ触れる機会を十分に提供している。また、新たな高大連携活動の試みとして、「教師へのとびら」「科学へのとびら」という継続・育成型の高大連携プログラムを開発・実施するなど、挑戦的な活動が実施されている。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

今後は、「教師」と「科学」以外の分野において継続・育成型の高大連携プログラムの導入が可能であるかを検討することが期待される。

観点①-4 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

平成 27 年度は、以下の調査研究を行った（「報告書」を参照）。

- ① H27 年度一般入試における志願動向分析（入学試験委員会で報告）
- ② H27 年度一般入試学力検査における設問分析（問題作成委員会へフィードバック）
- ③ H27 年度入学者アンケート調査実施・分析
- ④ H27 年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
- ⑤ H27 年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析（受講者・高校教員向け）
- ⑥ 高大連携活動：平成 27 年度教師へのとびら報告書
- ⑦ 入学者の質に関する分析

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができています。以上のことから入学者選抜に関する調査研究に関する業務が十分に遂行できていると判断できます。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係わる状況)

運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第14条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。平成27年度は、運営委員会が3回、入学者選抜方法等専門委員会が4回、広報・高大接続等専門委員会が2回実施された(「報告書」pp.243-245)。各委員会の構成メンバーは、「報告書」(p246)の通りである。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長、副センター長、専任教員、学部の入試委員
企画委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
広報・高大接続等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部から選出された教員、入試課長

(分析結果とその根拠)

新しく見直した組織体制の下、PDCAサイクルが機能している。また、専門委員会での活動を通じた業務実績になっていることから、組織運営が十分に行われていると判断できる。